

# 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between gestational hair dye use and allergies at 3 years old: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊婦の染毛剤使用と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連:  
エコチル調査より

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 甲信ユニットセンター(山梨大学)

発表雑誌名: Environmental Research

年: 2021 DOI: 10.1016/j.envres.2021.111530

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

染毛剤は接触性皮膚炎を起こしやすく、まれにアナフィラキシーなどを引き起こすと報告されているが、妊婦の染毛剤使用と、生まれた子どものアレルギー疾患発症との関連は今まで検討されていない。本研究では、妊婦の染毛剤の使用状況と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した77,303名の妊婦のデータおよび生まれた子どもの3歳時のデータを解析した。妊婦の染毛剤の使用状況と、生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎)の関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

妊婦の染毛剤の自宅使用(美容院でなく自宅で使用した場合)と職業使用(妊婦自身が職業として扱った場合)では、いずれも使用しなかった妊婦と比べて、生まれた子どもが3歳時に気管支喘息やアレルギー性鼻炎になりやすくなる傾向がみられた。妊婦の染毛剤の使用による生まれた子どもの3歳時のアトピー性皮膚炎と食物アレルギー発症への有意なリスク上昇はみられなかった。また妊婦の染毛剤の自宅使用では、使用頻度が高くなるほど、生まれた子どもが3歳時にアレルギー性鼻炎になりやすくなる傾向がみられた。

考察(研究の限界を含める):

本研究結果から、妊婦の染毛剤使用(自宅使用、職業使用)が生まれた子どもの3歳時の気管支喘息とアレルギー性鼻炎のリスクとなる可能性が示唆された。ただし本研究の妊婦の染毛剤の使用状況については、自記式の質問票での調査のため、必ずしも実際の染毛剤のばく露状況を反映しているとは限らない。また生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患を質問票で確認したが、保護者による申告であり、医療機関に照会をしていないこと等が本研究の限界である。

結論:

妊婦の染毛剤使用(自宅使用、職業使用)は、生まれた子どもの3歳時の気管支喘息とアレルギー性鼻炎のリスクとなる傾向がみられた。また妊婦の染毛剤の自宅使用では、使用頻度が高くなるほど、生まれた子どもが3歳時にアレルギー性鼻炎になりやすくなる傾向がみられた。